

## 国際カンカ研究会が発足 第1回シンポジウム開く 販社、研究者ら200人が参加



研究会発起人が一堂に会した

国際カンカ研究会(事務局・近畿大学薬学総合研究所、06-8721-5332)は、初の

シンポジウムとなる「国際カンカシンポジウム」を3月15日に近畿大学で開催し、研究者ら200人が集まった。

並ぶ長寿地域のひとつに、カンカの産地ホータンが含まれる新疆がある。また、ホータンの人々が日常的にカンカを摂取している例を示した。薬

理作用では滋養強壮や抗老化、免疫賦活などが確認されているが、新たに発見された成分モノテルペノイドトラフェニルエタノイド配糖体(カンカシド)により、血管拡張作用が異い出され、カンカのさらなる可能性が期待できると話した。

海外からの講演では新疆中業民族薬研究所の賈曉光氏が化学成分の研究を、新疆医科大学の学院のレナ・カスム氏がHPLC定量法による品質評価、そしてホータン地区政府科学技術局の高堅水氏が人工栽培の現状を述べた。同氏によると現在では、カンカの収穫はホータンの経済に影響

を与えるまでに至っているという。また北京大學薬学院の唐錫明氏は、成分と薬理について解説した。

学薬学部教授・村岡修氏、カンカの産地である中国、新疆ウイグル地区ホータン政府関係者の祝辞のあと、村岡氏が「カンカニクシヨウの成分と血管拡張作用」の演題で基調講演を行った。

また富山大学和漢医薬総合研究所の服部征雄氏によると、「細胞成分とその誘導体のエイズウイルススプロテアーゼ阻害活性について」の特別講演に続き、カンカの機能性の講演に移った。

まず揚州大学医薬研究所の張洪泉氏が、ラットによる性機能増強作用を発表。60匹のラットによる実験で、有意性が認められていると述べた。

このほか、森下仁丹と兼命酒製造は、健康食品での効果を発表。森下仁丹の浅田雅宣氏が、自社

村岡氏はコーカサス、フィンランドに並ぶ長寿地域のひとつに、カンカの産地ホータンが含まれる新疆がある。また、ホータンの人々が日常的にカンカを摂取している例を示した。薬

また富山大学和漢医薬総合研究所の服部征雄氏によると、「細胞成分とその誘導体のエイズウイルススプロテアーゼ阻害活性について」の特別講演に続き、カンカの機能性の講演に移った。

その後のトレッドミルで運動させたところ、投与群では回転数減少が抑制されていた。

シンポジウムの後、懇話会を開き、健康関連企業も多く参加し、「今後大きな商材になるのでは」と期待を寄せていた。